
本校家庭科の教育実習

家庭科 栗原 智美

(1) はじめに

家庭科の教育実習生は各4~2名、必修と選択実習と2回来ます。多くの経験をしてもらいたいと思いますので、栄養・調理関連の事、被服関連の事など多種にわたり授業の中で経験をしてもらいます。被服ではリメイク製作、保育では幼児のおもちゃ作りなどに関連した授業をします。食物については、比較的自由に授業が組める時期なので、実際に調理実習を経験したいかどうかを確認しています。調理実習は準備・片付けなどの単純な要素だけでも授業時間の2倍かそれ以上の時間を要します。内容的な準備、その後のプリントの点検・評価となるとはかりしれません。教員になることを希望する実習生としてはとても良い経験にはなりますが、努力を必要とします。そのやる気確かめます。ただし、その気持ちがあっても、経験のない実習生が初めての経験で満足のいく授業ができるわけではありません。それはどんなに優秀な人でも不可能だと思えます。その状態で、中学生の皆さんの前に立ってもらうことはできま

せん。安全があまりからまない授業であれば、それも可能です。ただ、実習を伴う授業の時は準備に大変時間をかけます。一人ではなく、チームで授業の準備をしてもらいます。実習に来ている仲間と協議・検討しながら進めます。準備の時から教員も具体的アドバイスをします。より安全に、より良い授業を実施できるように教員から実習生への指導をしていきます。そして、当日も教員も関わり、授業実施となります。

教育実習生には勉強する権利がありますが、中学生の皆さんにもしっかりと学ぶ権利があります。どのようにそれを両立させるか、とても大切な事です。実習生が来ることをメリットと変えていければ良いと考えます。

(2) 学習指導要領との関連

新しい指導要領の改訂の視点からも、生徒の実態把握や、3年間を見通した指導計画（題材構成）の工夫があげられています。また、基本的・基礎的な知識・技術の明確化、問題解決的な学習の充実があげられています。これらを

現在の家庭科のカリキュラムに盛り込む工夫を世中ではしていません。それらが崩れないように、計画したカリキュラムがスムーズに実施できるように、実習生にその流れの中に入ってもらうようにしています。

(3) チームで授業

授業研究をチームで行います。家庭科の特質に応じた学習活動を改善する視点を見つけることができ、それらを実行することで、世中の生徒の皆さんにとっての「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっていくと考えます。

(4) ICT関連

もう一つ6、7年前からずっと実習生に課題として出していることがあります。「出来ることなら、何か一つで良いのでICT機器に絡んだことを授業に取り入れてみることに」です。最近の家庭科の授業の中で世中生はiPadとloiloノートソフトを使って、ささっとプレゼンテーションをすることに慣れていきます。

その中で実習生がささっと授業に取り入れるのにはちょっとハードルが高いようです。時々、トライしようとする実習生はいますが、短期間ではやはり大変なことだと思います。だいたい落ち着くのはパワーポイントです。でも、

どのような写真をどのように取り入れるのか、家庭科室の中で、実習の始まる前に使用する文字の大きさは?など、考えることはたくさんあります。以前、パソコンが大変得意な男子学生が家庭科の実習生として来ました。パワーポイントの名手と他の家庭科生からも一目置かれていました。チームで写真を選び、文章を考え、授業のパワーポイントを考えていました。出来上がったパワーポイントは通常の会社の会議で使用するのであれば何も問題のない、スッキリとしたものでした。でも、これでは生徒には文字の大きさや、写真の並べ方が不親切だな、というのが第一印象でした。遠くの席だとよく見えないし、わかりにくい。はっきりとそのことを伝え、実際に一番後ろの生徒の席に座ってもらいながら説明しました。しかし、そこはパワーポイントの名手、パワーポイントの美しさが第一基準のようで、こちらの意図がなかなか理解できません。何度も説明していくと、パソコンの名手ではない他の実習生が授業を受ける側に立ち、実際の生徒の場所から見えるパワーポイントにすべく、手を加えていきました。確かに変に大きい文字があったり、決して美しいパワーポイントではないかもしれませんが、でも、大切なところが一目でわかります。生徒

たちの身近にあるものが写真の中にあることがすぐにわかります。思わず、じっと見てしまいます。元の写真・文字が同じパワーポイントで、授業の反応が大きく違うのがパソコンの名手にも生徒の反応でわかりました。生徒が間接的に伝えてくれたのです。生徒の反応が何よりの答えです。やっと、実感を持って理解できたその実習生は、幸運にも授業修正をする時間があり、修正をして再度臨みました。

大学で決められた日誌があります。実習が終わり中学校にその日誌提出の為に来校した時にも、そのパワーポイントの話で盛り上がりました。日々の日誌のやりとりの中でも、また、最後のまとめの中にも記載がありました。生徒の皆さんの前で、「目からうろこだった。」とのことでした。たぶんその実習生は腕をあげ、見る側の立場に立った本当に美しいパワーポイントを今も作っていることと思います。

(5) 生きた道徳

今年度来た家庭科の教育実習生の中で、夕方ちょっとソワソワしている実習生がいました。何だか理由はわからないけど、何がどうしたということでもなかったのですが、「どうしましたか？何かありましたか？」と勇気をもって聞いてみました。丁度前日が祝日で

お休みの日でした。「実は昨日、一緒に住んでいた祖父が亡くなって。」とのことでした。早く帰って良いことを伝えと、「(お家の人が)実家から来ているし、大丈夫です。全て(お家の方たちが)やってくれていて何も心配は無いです。」とのことでした。その実習生は東京にいる祖父母の家から東京学芸大学に通っていて、「昔は厳しくて私はあまり言うことを聞かなかったけど、一緒に暮らしてみても強い人だとわかり尊敬していました。」という話をしてくれました。先日、70回生に道徳の授業をする機会があり、「生命・命」に関して東京学芸大学附属の家庭科教員皆で作った道徳のDVDを観たり、生徒が自分のことや今までお世話になっている家族のことなどを考える機会がありました。名前を伝えない、実習生が特定されない形で、「実習期間中は寝ているところから毎日見送ってくれていて『頑張りなさい。』と見守ってくれていた。」という実習生の言葉を伝えました。まさに「ゆずり葉」だと感じました。

(6) 最後に

毎日が動いて、活動があって、成長していくのが中学生です。教育実習が日々の生活や授業にプラスになるように、日常の一つになるようにしていきたいと思います。